第８回碩田中学校区適正配置地域協議会　会議要旨

日時：平成 25 年 5 月 14 日（火）18：30〜20：30
場所：大分文化会館　第２小ホール

○出席者３６名、欠席者２名

１．開会のことば

・瑞木副会長より、開会のことば。

２．会長あいさつ

・吉田会長より、開催に当たってのあいさつ。

３．議事

（１）地震、津波対策等の防災について

① 碩田中学校区の具体的状況について

・校舎や運動場の面積の考え方や今年度の５月１日調査に基づく児童生徒の将来推計などについて説明する。

② 碩田中学校区の新設校建設候補地に係る意見要望

・新設校建設候補地に係る地震・津波対策等の防災について、各校区における協議結果の報告がある。

＜各校区における協議結果の報告（要約）＞

【荷　揚】

○新設校について『防災に関する私たちの基本方針』は、

①《学校で誰も死なせない》　②《「想定外」は許されない》

③《後生のために今頑張る》であり、具体的には、

ア、活断層型地震と海溝型地震とが連動する危険性が高いので、予想される津波災害から子どもたちの命を守るため、新設校は海岸線・河川からより遠い内陸部につくってほしい。

イ、今後少なくとも５０年後を見通し、安全･安心な学校にする。

ウ、地盤の来歴や液状化の危険性を考慮して、万全の災害対策を施し最大限強固な施設・設備にしてほしい。

エ、地域の防災やコミュニティの拠点としての機能を継続するため、統合された後に残る２小学校区の学校施設を拡充し、利活用してもらいたい。

※詳細は別添資料参照

【中　島】

①南海地震等では津波をはじめ大きな影響を受けることが想定される。（４校とも共通）

②この為、校舎や施設は十分な耐震性や液状化対策等を実施計画に織り込むこと。

③津波への対応は迅速な避難が最重要であり、校舎を避難ビルとして使用出来るよう、校舎

の階数や階段の仕様、非常用資材の備蓄等を検討すべきである。

④長時間の避難や風雨寒さから身を守るには、校舎が適しており、地域の要援護者、高齢者、幼児や保護者等の避難にも利用できるようにすべきである。

⑤登下校時の対応は、学校に戻るか帰宅を急ぐか、通学ルートの一時避難ビルに避難するかの判断を、教育訓練を通じ児童に修得させる。（地域の支援協力も必要）

⑥中島小学校周辺には指定避難ビルが多くあり、必要に応じて避難が可能である。
（周辺地域：中島西 15 棟、中島中央 9 棟）

⑦総合病院である日赤病院も近くにある。

【住　吉】

碩田中学校校地内に小中一体型の新設校建設が望ましいと思われる。

①新設校建設により小学校３校の子ども達の命を守るだけでなく、中学生の命も守ることを考えれば、碩田中学校校地内に建設することが望ましいと判断する。

②住吉小学校校地に小学校３校を新設した場合に、防災の観点から碩田中学校に進学するかどうかを検討する児童が増える可能性があるため、４校の中で一番敷地面積大きい校地（碩田中学校）に一体型の校舎を建設することが望ましい。

③子ども達の命を守ることは当然のことであるが、保護者や住民の命を守る拠点として学校の存在は大きく、特に住吉小学校周辺には避難ビルが少なく、保育所などの幼児の命を守るためにも期待は大きい。

④現時点で指定避難所ビルを含む避難所の少ない住吉小学校校区では、今後もマンションなどの建設も期待できないことから、新設校への期待値が高く、学校にいる間、家庭にいる間、地域で遊んでいる間を問わず、新設校での防災対策が必要な地域である。

⑤ある程度の大きさの敷地内に校舎を建設することで、避難時に不可欠な廊下や階段の幅を確保できる。避難生活時に必要となる体育館の大きさも確保し、２階・３階建てにできる予算を確保するには、小学校３校だけではなく、中学校を交えた４校での新設校計画が必要である。

⑥H26 年度には、碩田中学校隣接の社会福祉協議会が大分市教育センターになることが予定されているので、その施設の利用や職員の協力などにも期待ができる。

＜主な意見＞

【委　員】防災に対する考え方は、住吉校区と他の校区とでは異なる。学校は安全な場所、安全地帯と捉えているが、住吉校区では、危険な場所、危険な地帯、だから住民が避難できる建物を校区として必要としている。子どもの生命を守るための考え方として、防災の観点から碩田中学校地内に小中一体型の新設校建設が望ましいとしていることを理解してもらいたい。

【委　員】荷揚校区も住吉校区が感じている危険を同様に感じている。そのような危険と言われているところに子どもを送り出したくないというのが、逆に荷揚校区の方の意見である。小学校統合と地域住民の防災避難拠点としての機能は別に考え、小学生の生命を大事にする形での選択を考えるべきではないか。碩田中学校区全体で行政に対して、防災拠点としての機能の充実を今後とも図るように働きかける必要があるのではないか。

【委　員】中島小学校と荷揚町小学校の間に府内断層が示されているが、例えば阪神・淡路大震災の時には活断層が想定外の地域で動いていたという話もあるし、先日の淡路の地震でも大震災の時には出てなかった断層の先にある断層が地震を起こしていることを考えれば、想定されている府内断層帯の位置とは離れた場所で地震を起こすことも考えられる。

【委　員】活断層がどこにあるかというのは、本当は分かりにくいことである。数ある断層の中で府内断層を問題にしているのは、活断層が動いた場合には海側が沈むということが問題だと言われていることからであり、海側が沈むと地震、津波が来る前に海水が入ってくる可能性がある。そのため、今後の 50 年間の子どもたちの生命を守るためにも、そのような危険性を除去する方向で考えるべきではないか。

【委　員】活断層型地震の際には、府内断層より北は地盤沈下、南に立地するのは荷揚町小学校と書かれているが、荷揚町小学校地に立地すれば安全だと言えるのか。また、地盤の来歴では、現在の荷揚町小学校は 1644 年の時点ですでに陸上にあったということが書かれているが、だから荷揚町小学校については、液状化は発生しないとは言えないかと思う。

【委　員】荷揚町小学校が府内断層の南側に位置することから、安全性があるのではないかという意味である。また、1644 年時点で確かな地面上にあったのは荷揚町小学校のみであるが、決して全く被害がない、全く液状化の心配がないと言っているわけではない。このような事情の中で、4 校の中で府内断層を起因とするような地震、それに伴う地盤沈下、海水の流入、津波の浸入等に対してより生命、安全が確保されるところはどこかという選択することが本協議会の責任ではないか。

【委　員】地図上の線の引かれたところに府内断層はあるという想定なので、その線上に府内断層はあるという結論は早いのではないか。また、液状化危険度マップでは、ほぼ碩田中学校区全域が液状化の危険度が極めて高いとされていたと思う。おそらく条件的には、荷揚校区・中島校区・住吉校区も同じというくらいの条件ではないか。

【委　員】国土地理院から出ている都市圏活断層図の中に府内断層に関する地図があるが、この府内断層がここにあるかどうかは想定ではなくて確かに存在する。

【委　員】防災に対する考え方の格差がありすぎるので、この場で論議をしていても結論は出ないように思う。やはり専門家に付託をするようなことを検討する必要があるのではないか。

【委　員】これまで防災という観点で、海溝型地震しか考慮する必要はないという感じの論議が行われているが、今朝の新聞に、徳島県が活断層を配慮して、危険性があるならば公共の建物は建てさせないという方向を打ち出したということが報じられている。活断層型を考慮に入れて話し合いを進める必要がある。

【委　員】海溝型地震のみで良い、活断層型地震については考慮しなくても良いという考え方で発言しているわけではない。海溝型地震の発生確率は非常に高いので、当然のことながら考えなければいけないが、活断層地震については分からないことが非常に多い。校舎を建てるということになると、我々の知識では極めて難しいので、必要があれば専門家に委ねて、検討を依頼したらどうか。

【事務局】以前専門家に相談したことがあるが、専門家として場所を選定することは難しいと言っていた。しかし、色々と意見もいただいたので、事務局で複数の専門家に意見

を聞いてみたいと思う。

【委　員】防災を考えるうえで、自助、共助、公助という考え方があるが、非常に大きな災害が起きたときには学校が避難の拠点となる。そういう時には、やはり全体から避難してくるのに便利の良い場所を考えれば、出来るだけ中心に近いところの方が、避難生活を送る上では良いのではないか。

【委　員】津波は海から来るわけで、海に向かって子どもを登校させてよいのかということを考えた時に、やはり一番に被害を受けるところから遠ざけたいというのが、母親としての一番の気持ちではないか。

【委　員】ＰＴＡとしての意見だが、協議会での協議の終了時期を決めて、教育委員会がどこに立地をする、どういう教育を行うということを発表し、それを広報できる日程を早める雰囲気をこの協議会でつくっていかないと、保護者としてもどの学校に就学させるかと戸惑うのではないか。

【議　長】教育環境と子どもの安全、安心を考えた場合、なかなかベストの答えは出てこないかもしれない。だから、ベターな条件をあつめて選ぶために、この協議会で意見を出し合うことが大切である。協議では、各校区からその校区の特徴的な部分の話も出たので、皆さんも各校区の特徴を理解したかと思う。一方、各校区において共通する部分も多いことがわかったと思う。今後、新設校の位置を検討していくうえで、このような課題に対し、どのように対処していくかという協議も必要になってくる。

【委　員】次回の協議事項についてだが、第６回の会議で確認した観点の表を、次回までに防災以外の他の観点についても各校区の考えを全て記載し、そしてその表全体を見ながら協議をするという方向で進めた方が良いのではないか。

【委　員】我々は所属する校区だけの問題ではなくて、あくまでも３小学校区内の子どもたちと住民を含めた安心安全の討議をするわけなので、もう少し幅広い考え方で観点の表を埋めて、どこに建てたらベターであるかということを具体的にやっていかなければ時間がない。大分市で最初のモデルになる地域なので、早くどこが良いかということの結論を出さなければならない。

○地震・津波対策等の防災に関することについて、事務局より複数の専門家に意見を伺い、次回報告することを確認する。
○各校区において碩田中学校区の新設校建設候補地に係る観点の表を全て記載し、会議の１０日前までに事務局へ提出し、その表について次回協議することを確認する。なお、住吉校区については、碩田中学校地とする考え方で提出することを確認する。

（２）その他

・次回以降の日程、各小中学校の通学路資料について説明する。

○第９回地域協議会は６月 25 日（火）の 18：30～20：30 に、第１０回地域協議会は７月 30 日（火）の 18：30～20：30 に、いずれも大分文化会館第２小ホールで開催する。

４．閉会のことば

・江藤副会長より、閉会のことば。